

2. アクティブ・ラーニングアンケートの結果報告

依頼文

授業担当教員各位

アクティブ・ラーニングプロジェクト代表

野田 敦敬
伊東 正人

アクティブ・ラーニングの授業アンケート調査について（お願い）

第3期中期目標・中期計画における本学の重点目標の一つは、大学教育を通じてアクティブ・ラーニング（以下、AL）の学びを積んだ学生が、学校現場で能動的学修方法を展開できるように養成することである。そのための体制を全学的に取り組むために、ALを取り入れた授業を学部課程、大学院課程ともに全開講授業の6割以上で導入することを目標としています。

「「主体的・協働的な学び」を実践できる教員の養成」であるアクティブ・ラーニングプロジェクトは、ALを導入した新しい学習指導方法を開発し、学校現場でALを実践できる教員を養成することを目標としています。

本プロジェクトでは、2012年に文部科学省が定義したALや先進校の事例を参考にしながら、教員養成大学としてのALについて検討してきました。そこで、本学ならでは4つの視点から目指すALを考え、平成29年3月29日開催のFD集会で『本学が4つの視点から目指すAL』として提案し、参加者からの意見等を集約しました。

本プロジェクトは、本学が目指すALを含んだ平成29年度開講授業の開講数と実施教員数の現状調査するために簡単なアンケートを実施することになりました。アンケート調査の結果から、本学でのAL授業の現状、ALを導入するまでの課題を整理し、本プロジェクト遂行に向けた材料としたい。

つきましては、アンケートについてはアンケート用紙を各所属学系事務室に提出もしくは学務ネットで回答して下さい。急なお願いですが、ご協力のほどよろしくお願ひします。

【アンケート調査主体】アクティブ・ラーニングプロジェクト

【アンケート提出期限】2018年3月30日(金)

【アンケート対象者】平成29年度に愛知教育大学で授業を担当している全教員
(非常勤講師を含む)

【アンケート調査の回答方法】

アンケート対象者に依頼文と共にアンケート調査の紙媒体を授業担当教員に送付する。

アンケートは次のいずれかの方法で回答してください。

- 1) 紙媒体の場合は、所属の学系事務に提出する。
- 2) Webの場合は、学務ネットにログインし、「アンケート回答」から回答する。

注) 一時保存の機能はございません。また一度回答いただきますと修正はできません。

【本件に関する照会先】

(アンケート内容) 理科講座 伊東正人 内線2621

(事務的内容) 企画課 鈴木英之 花井咲絵 内線2717

配布したアンケート用紙

アクティブラーニングについての授業アンケート調査

所属 _____

氏名 _____

下記の『本学が4つの視点から目指すアクティブラーニング』をお読み頂き、アンケートに回答をお願いします。また、授業科目については、平成29年度に開講したすべての担当授業を対象とします。

【本学が4つの視点から目指すアクティブラーニング（以下、AL）】

〈主体的な学びの視点〉

授業内容等から学修者自らが課題を発見し、その課題の解決に向けて、問題解決型学習、体験学習、調査学習等を行うことで、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力が育成されている。

〈対話的な学びの視点〉

学修課題及び修得した教養、収集したデータ、体験等について、グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等を行うことで、より個人の学びが深まっている。

〈深い学びの視点〉

単に断片的な知識や技能等を修得するのではなく、主体的及び対話的な学びの過程で、学修者の思考が活性化されることで、知識や技能等の関連が図られ、新たな概念化することができている。

〈教員及び教育を支援する専門職の養成としての視点〉

学修者がALの価値を実感することで、教員及び教育支援専門職に就いたときに、自らに児童・生徒に主体的に対話的な深い学びを実践できるようになっている。

問1 担当している全科目（学部と大学院）に、上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むALの授業はありますか？を入れてください。

ある

ない

「ある」と回答された方のみ、以下にお答えください

問2 担当している全科目（学部と大学院）の中で、上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業科目はいくつありますか？

担当する学部授業全科目で コマのうち コマある

担当する大学院授業全科目で コマのうち コマある

問3 同一科目的全授業回数（16回）の内、上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の平均回数はどの程度ですか？を入れてください。（科目により回数が異なる場合、最大の平均回数を回答して下さい）

1, 2回

3～8回

9回以上

問4 上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、取り入れている授業形態があれば教えてください。を入れてください。（複数回答可）

- 学生参加型授業（クリッカー、感想・質問カードの使用など）
- 学生の共同授業（グループワーク、グループディスカッションなど）
- 教員や学生が問題設定をし解決する（問題発見・解決型学習など）
- 野外実習、体験実習、調査学習など
- その他（以下に記入）

問5 上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、デジタル機材を使用した授業形態あれば教えてください。を入れてください。（複数回答可）

- 電子黒板やデジタル教科書を用いた模擬授業
- e-learningシステムを活用した授業
- ICT機器の効果的活用をした授業
- その他（以下に記入）

アンケートにご協力ありがとうございました。（各学系事務室に提出をお願いします）

アンケート回収率

教育科学系		人文社会科学系		自然科学系		創造科学系		計	
選択肢	教員	非常勤	教員	非常勤	教員	非常勤	教員	非常勤	
配布枚数	63	30	68	49	55	17	45	35	362
回収枚数	32	22	25	32	25	2	30	22	190
%	58.1%		48.7%		37.5%		65.0%		52.5%

アンケート結果

アクティブラーニングについてのアンケート集計表

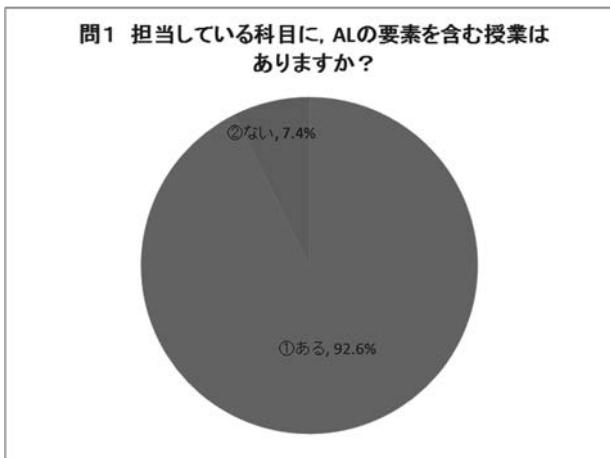
平成30年3月実施分

科目名称：全学系

回答数：190

担当している全科目(学部と大学院) 問1 に、4つの視点のうち少なくとも1つを含むALの授業はありますか？	選択肢	①ある	②ない					
	%	92.6%	7.4%					
	回答数	176	14					
「ある」と回答された方								
担当している全科目(学部と大学院) の中でも、4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業科目はいくつありますか？	選択肢	①学部 AL導入	②大学院 AL導入					
	%	71.5%	78.4%					
	回答数	917.5/1283.45	265/338					
同一科目の全授業回数(16回)の内、4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の平均回数はどの程度ですか？	選択肢	①1,2回	②3~8回	③9回以上	④無回答			
	%	6.8%	44.3%	46.0%	2.8%			
	回答数	12	78	81	5			
4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、取り入れている授業形態を教えてください。 (複数回答可)	選択肢	①学生参加型 授業	②学生の共同 授業	③教員や学生 が問題設定 をし解決する	④野外実習、 体験実習、 調査学習	⑤その他	⑥無回答	
	回答数	105	135	103	61	20	1	
	回答数	6	8	57	13	103		
4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、デジタル機材を使用した授業形態を教えてください。 (複数回答可)	選択肢	①電子黒板や デジタル教科書を用いた模擬授業	②e-learningシ ステムを活用した授業	③ICT機器の効果的活用をした授業	④その他	⑤無回答		
	回答数							

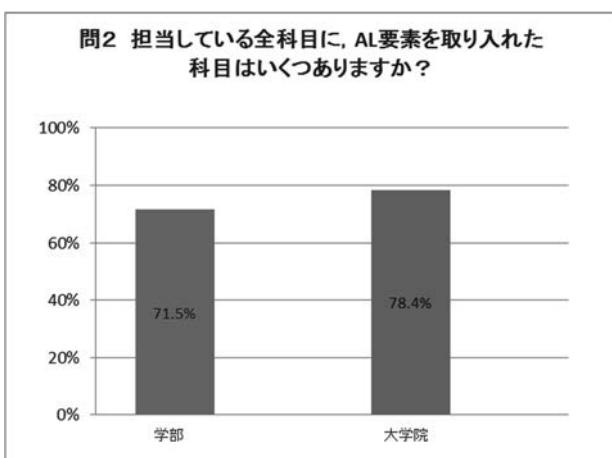
問1 担当している全科目(学部と大学院)に、上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むALの授業はありますか？



選択肢	%	回答数
①ある	92.6%	176
②ない	7.4%	14

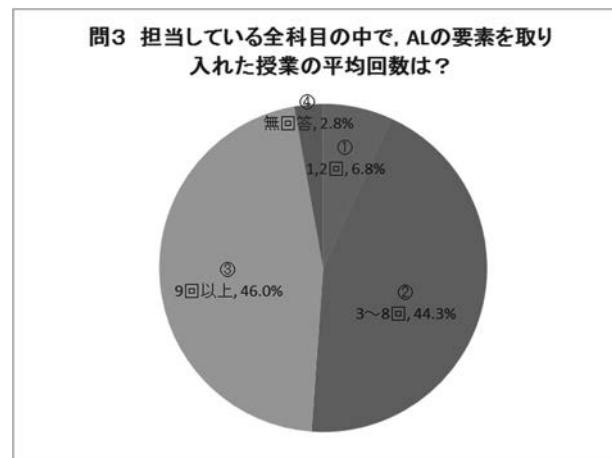
問1で、「ある」と回答された方

問2 担当している全科目(学部と大学院)の中で、上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業科目はいくつありますか？



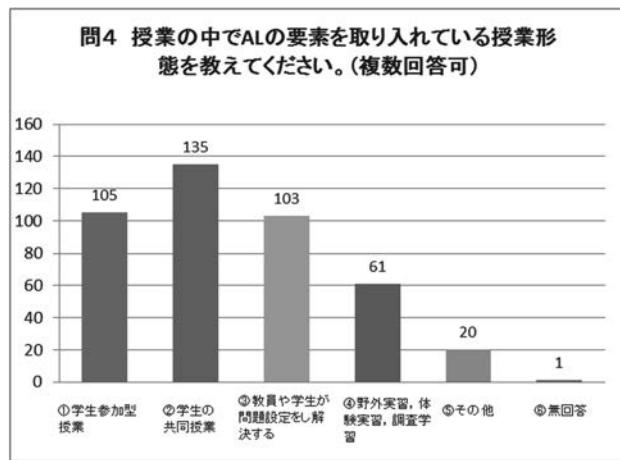
選択肢	%	回答数
①学部 AL導入	71.5%	917.5/1283.45
②大学院 AL導入	78.4%	265/338

問3 同一科目の全授業回数(16回)の内、上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の平均回数はどの程度ですか？



選択肢	%	回答数
①1, 2回	6.8%	12
②3～8回	44.3%	78
③9回以上	46.0%	81
④無回答	2.8%	5

問4 上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、取り入れている授業形態があれば教えてください。（複数回答可）

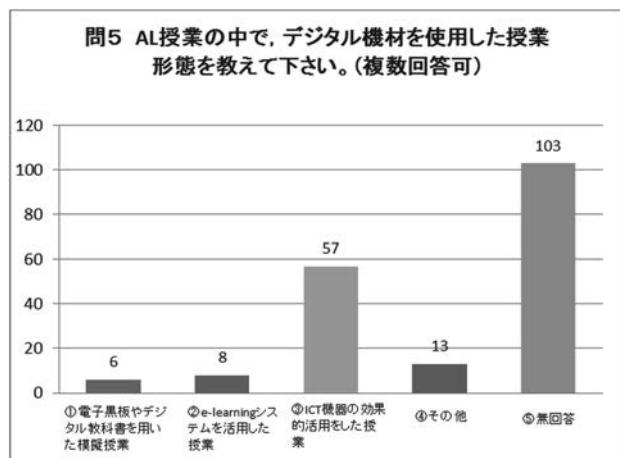


選択肢	回答数
①学生参加型授業	105
②学生の共同授業	135
③教員や学生が問題設定をし解決する	103
④野外実習、体験実習、調査学習	61
⑤その他	20
⑥無回答	1

⑤その他

- ・「イメージ奏法」を使ったICT機器を使った授業
- ・内省と評価
- ・模擬授業、教材作成
- ・アクティブラーニング型授業を心得ています。講義の部分でも常に質問→話し合い→回答というプロセスを取っています。
- ・看護実習（実技）
- ・そもそも解決すべき「問題」とは何か、対話を交わせて考えさせる。
- ・地球カレンダー作成課題
- ・短時間でメンバー替えを伴う、グループディスカッション（ワールドカフェ方式）
- ・回答に選択肢を用意する質問を作り、選んだ回答についての理由等を出し合い、全体でディスカッションした上で、解答を示す。（仮説実験授業風の進行）
- ・神戸大学学生が中心に作成したゲーム「震災とアスベスト・クロスロード」
- ・アスベスト使用建物マッピング調査。調査内容の企画・実施・結果のまとめには学生の工夫が多数表現される。また調査後に、自主的な追加活動も多数展開されている。
- ・個人レッスン形態（声楽のレッスン）
- ・読解内容の発表と討議
- ・体育科の場合、実技、体験を通じた共同作業に関する内容が多く行われるため、ALの授業が多くなる傾向にある
- ・臨床実習（学外の保健医療施設）
- ・論文指導や原書講読を含めるべきなのかいつも迷うのですが、特に後者は反転授業的な形態をもち、十分な学生個人の予習を前提として、授業時間内においては学生同士の議論・教師との対話によって予習段階での読み解きの訂正をし、それを通じてテキストを超えた知識理解を進める点において、一種の（というよりは「まさに」というべきか）アクティブラーニングとして考えています。
- ・学生が最終レポートを提出する前に、クラスのメンバーと相互に添削したり、内容について交流するという活動を実施させています。さらに、クラス内に留まらず、大学内の先輩や学外の大人たち2名以上にレポートを読んでもらい、コメントをいただいている。こうした社会的な交流のALにまで広げています。時には、大学に入った後の様子がわかるような、両親からの交流も伝わってきています。
- ・クラスの共通分野の本を選択する際に、教室まで選択した本を持参されることから、学生の本を見る目が変わってきます。学生の共同授業というよりも、2人の対話を何組も行うことで、聞き手・話し手としての学生が変わっていきます。
- ・習った知識を自分で使ってみました。
- ・授業題目内ではあるが、授業で学習したことを参考に、学生がテーマ選びから行い、最終的に模擬授業をし、学生間で質疑応答、さらに聞き手学生が書いたコメントから自分が選んだテーマを再考察する。
- ・教育実習の実体験から担当クラスでの児童生徒の状態を大学の授業で学習した基準で論理的に分析する。
- ・グループワークでのプレゼンテーション
- ・上記共同授業について、具体的には、「哲学対話教育」(P4C)の形態の授業を展開した。教員もあくまでディスカッション参加者の一人として対話に加わった。
- ・講義形式で知識を習得させることにとどまらず、授業プリントや映像資料を利用して、習得した知識を活用する学習活動を中心に授業を構成している。また、授業プリントへのコメントや質問に対しては、毎回、回答およびコメントを付し、次回授業時に返却している。

問5 上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、デジタル機材を使用した授業形態があれば教えてください。（複数回答可）



選択肢	回答数
①電子黒板やデジタル教科書を用いた模擬授業	6
②e-learningシステムを活用した授業	8
③ICT機器の効果的活用をした授業	57
④その他	13
⑤無回答	103

④その他

- ・学生は携帯・パソコンを使い、プロジェクターで発表しながら授業を行っている。（音楽表現学会 教育大学集会にて発表）
- ・デジタルオシロ
- ・実験併用 PowerPoint
- ・パワーポイントを使用する程度
- ・youtube(文科省小特支体育運動教材)の活用
- ・DVD 視聴
- ・視聴覚教材を用いた授業分析・模擬授業
- ・アスベスト使用建物マッピング調査では、その手法として、グーグルマップやスマートフォンにあるGPS機能を利用した方法等を紹介する。実際に、その手法を使う学生は多数ある。
- ・公害・環境問題の導入時に、情報収集として、インターネットによる動画「我が会社に「非」あり～水俣病・内部告発に挑んだ医師の闘い～／NHK」を紹介し、自宅で視聴等を勧めた。
- ・授業時間内に10分程度、自分のスマートフォン等の検索機能を使用して「水俣病」「水銀汚染」等を検索させ、気になったことなどを発表させた。
- ・パソコンによるプログラミング、およびシミュレーション
- ・スマホの活用をしています。ワークシートにある「コトバンク」の活用、「新書マップ 風」の活用、「アマゾンによる本の検索」「附属図書館の本の検索」など、随時スマホを用いて、最新情報を検索させています。
- ・Google Formを用いた。具体的には、教員が用意したアンケートフォームに、学生がスマートフォン等を用いて授業時間内に回答し、その結果をクラス全体でリアルタイムで共有する、という形でそれを活用した。